

医師紹介 ～私の専門分野～

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより再認識された感染対策の重要性

呼吸器内科医長 近藤 晃



4月より呼吸器内科医長として赴任しました近藤 晃です。呼吸器内科の中でも、とくに感染症分野が専門になります。呼吸器感染症の話をする中で、新型コロナウイルス感染症のことはみなさんすでによくご存知のところと思いますが、やはり避けては通れない話題です。

新型コロナウイルス感染症は2019年初旬に中国の武漢で最初の感染者が確認されて以降、わずか数ヶ月の間でパンデミックと言われる世界的な大流行を引き起こしました。その後より現在に至るまでの間に、われわれ人類の叡智を集結して、検査方法、治療薬、ワクチン開発、感染対策など様々な形でこの新興感染症に対峙してきました。これらの対策により、パンデミック当初よりはるかに状況は改善したことも事実です。しかし、残念ながら、未だに終息の目処がきちんと立っておらず、混乱の渦中に現在もまださらされています。このように、感染症の流行は単なる疾患の広がりにとどまらず、私たちの社会生活の根幹、人生そのものへも大きく影響をおよぼすことを、今回本当に痛切に経験しました。

新型コロナウイルス感染症へ対峙していく中で、感染対策の重要性が再認識されることになりました。その結果、今年度より従来の「感染防止対策加算」から「感染対策向上加算」へと名称も新たに、要件を満たせば診療報酬も大幅に強化されることになりました。また、国の第8

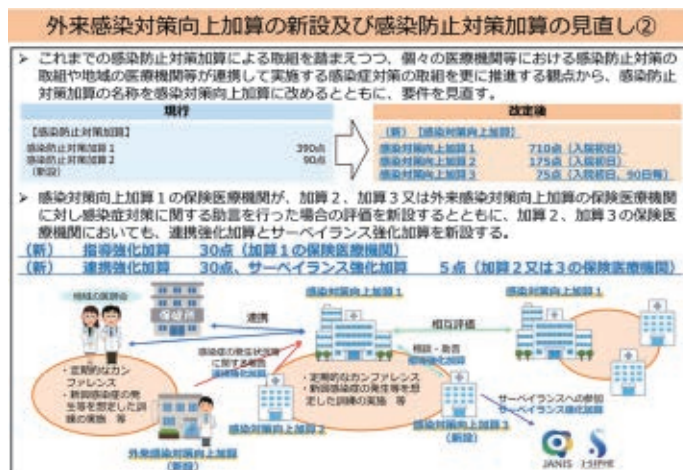
次医療計画の策定に際しては、従来の救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療の5事業に加えて、「新興感染症等の感染拡大時における医療提供体制の確保」に関する事項が、新たな重点対策事業に位置づけられるようになりました。加えて、政府の感染対策の司令塔となる「内閣感染症危機管理庁（仮称）」の創設や、このほか医療研究の拠点として国立感染症研究所など2機関を統合し、米疾病対策センター（CDC）をモデルとした「日本版CDC」創設も検討されています。このように、感染対策に求められる要件の増加とともに、その重要性もますます高まっています。

当院での感染対策を語る上で、もうひとつ避けては通れない点があります。ご承知のように多剤耐性アシネトバクター（MDRA）の問題です。現在もなお続くこの問題も当院の最重要課題のひとつであり、引き続きMDRAをはじめとした感染対策に取り組んでいく必要があります。

感染対策は、患者さんも含め、ひとりひとりの全職員の方々の理解と協力無しには成り立ちません。また、非常に“見えづらい”、“分かりづらい”分野でもあります。課題はたくさんありますが、少しでもよりよい方向へ向かうように、みなさまと一緒に取り組んで参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。



出典：厚生労働省 第8次医療計画の策定に向けて



出典：厚生労働省 令和4年度診療報酬改定説明資料